

令和5年3月吉日

成瀬高等学校 第43回 卒業式報告

3月11日(土)、第43回卒業式が無事行われました。(卒業生268名)

式次第

開式の辞

国歌斉唱 (CD)

卒業証書授与

校長式辞

東京都教育委員会挨拶

来賓紹介

祝電披露

送辞

答辞

閉式の辞



卒業証書授与



卒業式会場



各クラスでの卒業証書授与



答辞



卒業式を終えて

答辞(抜粋) 3年 彦坂 琴音

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、入学式もできないまま自宅学習となった私たち。全員で学校に集まる事ができたのは6月初めの頃でした。しかしその後も分散登校や時差登校など安定しない学校生活で、私たちはとても不安でした。周囲からも「コロナで様々な行事が潰れ、何をするにも制限が潰れ、何をするにも制限が多く、この学年は気の毒だ、可哀想」と言われることもありました。確かに私たちが思い描いたよう高校生活を送ることはできませんでした。しかし私たちは、自分たちを気の毒だとか可哀想だとは思っていません。当たり前に行えていた事ができなくなった分、得られることも多かったと私は思っています。今、このようにたくさんの方に見守られながら私たちは卒業式を迎え、私は卒業生を代表して答辞を述べる事が出来ています。このことがどれほど特別で幸せな事か、今の私たちには分かります。三年間順調に学校生活を送っていたら気づくことが出来なかったと思います。体育祭や文化祭、後夜祭でもそうです。

私は後夜祭の企画運営をする中で後輩のサポートにとっても助けられていました。本来であれば先輩の背中を見て学び、私が指揮を採り3年生で後輩を引っ張っていくべきですが、どのように企画を立て、何から作業すれば良いのかわからずとても苦戦しました。当日後夜祭が円滑に進み、片付けまでスムーズにできたのは生徒会執行部のメンバーが真摯に取り組み全力でサポートしてくれたからだ強く感じました。おそらく体育祭や文化祭の運営に携わっていた人も同じように感じていると思います。今まで通りの学校生活を送るより、今までにない学校生活を送る方がより価値があり、成瀬高校の歴史の新たな一ページになると私は思います。これからそれぞれが次の舞台に進んでいきます。思いがけない事態に直面することや理不尽に感じる場面もたくさん出てくると思いますが、この学校で学んだことを胸に一步一步着実に歩いていきます。最後になりましたが、校長先生をはじめとする先生方や、今まで支えてくださったすべての方に感謝申し上げますと共に、成瀬高校のさらなる発展を祈って答辞とさせていただきます。

送辞（抜粹） 2年生徒会長 瀧川 伊吹

ご卒業おめでとうございます。私たちの大きな道標となってくれたのが、43期生の存在でした。誰も経験したことがなく檮祭うして直接お祝いの言葉を送れる日が訪れた事、嬉しく思います。今までの当たり前だった日常が当たり前ではなくなった激動の高校生活ですが、最上級生として高校生活を支えて下さった先輩方に尊敬の年を抱いています。新しい道でのより一層のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。



43期 担任団より（学年主任 黒羽 博行）

43期生のみなさん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。そして、本当にありがとうございました。

みなさんは、新型コロナウイルスの状況や受験などに不安と心配の連続だったと思います。また、高校生活を十分に楽しむことができず、悔しさと虚しさに満ちていたと思います。

そんな3年間でも、答辞にもあった「当たり前に行えることの大切さを知った」ということこそが、生きる上で周りの人達を幸せにするエッセンスであると信じています。今まで誰もが経験したことのない、未曾有の状況で、行事や勉強において工夫を凝らし、自分の力を最大限に発揮しようとするみなさんの姿から私たちはたくさん学ばせていただきました。本当にありがとうございました。みなさんに今後会える機会が少なくなるということはとても寂しいのですが、たまには近況などを知らせに来てくれると嬉しいと思います。その時まで、元気で、あきらめないうで、また会おうな。

最後に、PTAの皆様より卒業記念品として、モバイルバッテリー、コサージュ、お饅頭を頂戴しました。ありがとうございました。

